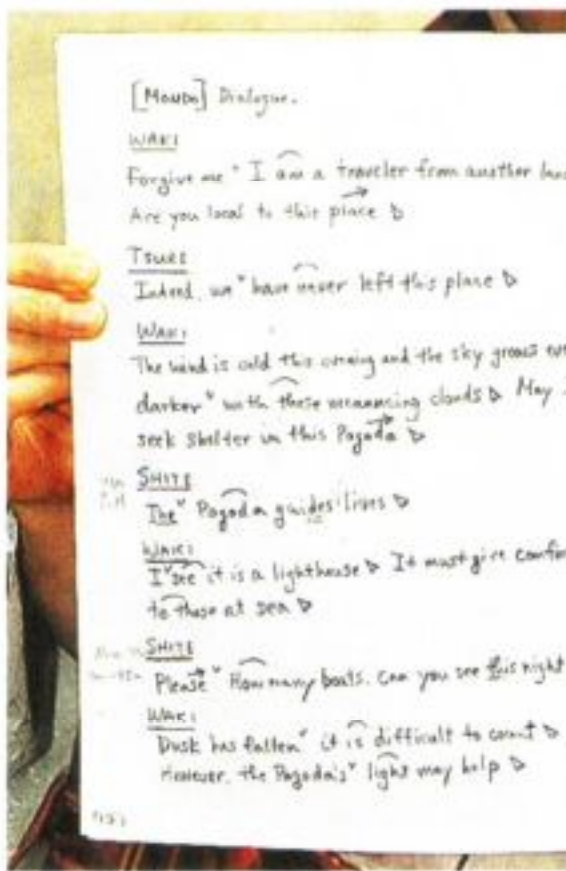


# 福山の能楽堂 初の英語公演

福山市光南町2丁目の喜多流大島能楽堂は12月2日から9日間、ロンドンなどヨーロッパの4都市で、全編英語による能舞台を公演する。これまでも海外公演は行ってきたが、劇のセリフにあたる謡を英語で演じるのは初めて。主演を務める大島衣恵さん(35)は「能が、人間の感情など人類共通のテーマを舞台で表現できる芸術であることをヨーロッパの人々にも感じてもらいたい」と話している。(中野寛)

## 中国系英国人の原作

英語で上演するのは「パゴダ」。中国系イギリス人作家のジャネット・チョンさん(58)の原作で、チョンさんの祖母の実話を基にした。祖母をモデルにした主人公の女性、美鈴が暮らす中国東南部の村が飢饉に襲われ、美鈴は息子を守るため外国人に手渡す。その息子が死んだ後、旅で村を訪ねた孫の女性と、幽霊となって現れた美鈴と美鈴の娘との語り合いを通して、子どもを手放さざるを得なかった事情や変わらぬ親子の愛情などを描く作品だ。07年11月にチョンさんが来日した際、大島能楽堂で鑑賞



英語で書かれた台本。謡の節に合わせた記号が書き込まれている

### 来月2日から欧州4都市で



英語でけいこする大島さん。初めての挑戦に向け、熱がこもる＝福山市光南町2丁目の大島能楽堂

した舞台に感動。当初はミュージカルに仕立てようと考えていたこの作品を「能でやりたい」と大島さんらに持ち込んだ。大島能楽堂との付き合いがある、アジア演劇を研究している武蔵野大学のリチャード・エマート教授(60)を紹介し、エマート教授らとチョンさんが英語で能の台本に起こして大島さんらに出演を依頼した。

上演時間は1時間半で、19人が登場する。舞の型付けは大島さんと弟の輝久さん(33)が担当した。

公演は、ロンドンのほか、オックスフォード、ダブリン、パリで計9回予定している。パゴダに加え、世阿弥の原作の古典「清経」を日本語で上演し、日本のオリジナル

スタイルも味わってもらおう計画だ。26日にヨーロッパへ出発する大島さんは「『パゴダ』は、能の作品がテーマにしてきた人間の心理を表現している。日本語と英語の音の響きの違いなど技術的に難しい部分もあるが、能の本質を踏まえた作品だから英語でもやれる」と意気込んでいる。

back